

ニュータウン地域での子育て、介護を強力に進める自治会活動		面談年月
福西自治連合会会長 井上愛子氏 同副会長・洛西ケーブルビジョン(株) 藤本廣志		H18年2月
(活動のフィールド) 洛西ニュータウン		福西学区では昭和54年に入居が始まり、昭和55年9月に一つの自治会が発足後、昭和56年に福西自治連合会が発足した。 平成14年4月に子育て休憩室を設置、ふれあい喫茶を開設し、平成17年8月には、福西消防分団、NPO 法人「洛西共助会 洛らく」、平成18年8月福西安全見守り隊が発足。
活動内容		
<p>井上愛子氏について 中学校のPTA活動を通し、地域女性会の設立に奔走し初代会長に就任。民生児童委員も務めた。 2004年、自治連合会会長に就任。ニュータウン住民の高齢化による人間関係の希薄化等の課題に取り組み、「ふれあい喫茶」の開設や、消防団の独立に合わせた詰め所の新築に尽力。 洛西ケーブルテレビジョンの活動 学校や自治会行事などをメインにした番組で住民のコミュニティーづくりに貢献。 訪問介護事業所「洛らく」について 2005年8月に開所。NPO法人洛西共助会(西村繁雄理事長)が、「住民による住民のための地域福祉活動」を掲げて設けた。地元に住むヘルパーならではの細やかなサービスなどが好評。 洛西共助会は、洛西ニュータウン内の福西学区の社会福祉協議会が2004年9月に立ち上げた。要介護の地域住民にサービスを広げるとともに、住民が互いに支え合う仕組みを目指している。</p>		
「都市再生の担い手」として事務局が注目した発言等		
<p>活動は人のつながりが契機で、子供を育てているPTAの仲間と地域女性会を立ち上げ、活動のきっかけとなった。 市の補助と、自治体で集めた資金により、消防団の分団を独立させた。 主に保育園入園前の子を対象に、子育て支援を実施。母親たちは、集合住宅で独りで子育てに悩んでいるので、サークルに来ると、母親自身がリラックスできる。また、子育て休憩室を卒業していった母親たちが手伝いに来てくれており、良い循環が起きている。 集会所は重要。人の集まる場所を作れば人が出てくる。会館は、各種団体が当番制で自主管理している。</p>		
子育て休憩室	福西ふれあいまつり野外ステージにて	洛西共助会の話し合い
		
(福西会館)		
		

インタビュー概要

(活動内容についての説明)

自治会の活動について

- 自治会へは世帯単位で加入しており、任意形式ではあるが、ほぼ全ての世帯が加入している。ただし、公団住宅に住んでいる人たちは入ってくれない。家賃が比較的高く、入れ替わりが頻繁であったり、法人に対してまとめて貸し、社宅として使っているからだと思われる。
- 分譲住宅に住んでいる人たちの地域への貢献意識は高く、国勢調査を実施する際も好意的。
- 活動は人のつながりを契機としており、子供を育てているPTAの仲間の地域女性会等の活動のきっかけになった。現在のコミュニティ活動は、主婦が中心となっている。
- 役員の人たちは運動会のときにも応援団やお弁当の世話や飲物の世話をしてくれ、みんなよく手伝ってくれる。自治会は80~800世帯くらいまで規模は様々であるが、役職が複数あるので、役員は一世帯にとって十数年に一度は回ってくるのではないかと。
- 平成17年10月には、消防団の分団を独立させた。小学校の敷地内に器具庫を設置してもらったが、費用のうち250万円は自治会が集めることを条件に、800万円ほどの費用については、京都市が負担してもらった。募金は自治会ごとに割り当てて戸別に徴収したほか、有志の寄付もあった。器具庫自体は自治会財産として管理している。
- 地域的にコミュニティ活動への意識は高いと思う。

洛西ニュータウンが抱える課題について

- 高齢化が進み世代交代できないことが一番の問題。世代階層が混ぜられないという課題がある。
- 商店については、サブセンター衰退の問題がある。福西学区では、スーパーが昨年閉店した。ここへようやく新たな入居スーパーも決まり10月にオープンするというところで、ほっとしたところである。社会福祉施設を商店の代わりに入れるという話もあったが、高齢化が進んできており、やはり住民が求めているのは歩いて行ける商店である。管理公社に何度もお願いしてよかったと思う。
- 洛西ニュータウン内での移動が大変。地区の外と結ばれているバスの路線はあるが、区内内を行き来している路線がない。当初は巡回バスのようなものがあつたがなくなってしまった。高齢化が進んできている今こそ必要だと思う。
- 戸建てについては、ほとんど家は建てて人が住んでいるが、ニュータウンができてから全く住んでいないという家も数軒ある。集合住宅には空き家も結構出ている。

介護

- 「洛らく」という介護のNPOがある。社会福祉協議会そのものよりも動きやすく、協議会の実働部隊といったような団体。
- 独居老人の安否確認等を実施している。独居老人に社会福祉協議会のような存在があることをアピールし、「洛らく」の存在を知らせている。

子育てサークル

- 民生委員が中心となって、子育て休憩室を運営している。
- 主に保育園入園前の子を対象に2時間の子守を行い、その間に母親達が手作りの品を作ったりする活動を実施。集合住宅で独りで子育てに悩んでいるので、サークルに来ると、母親自身がリラックスできるリラックスルームの機能もある。
- 地域は福西学区に限定せず、民生と社会福祉協議会からの支援により無料で実施しているので、近隣の地域など学区外のいろいろなところからやってきている。
- 子育て休憩室を卒業していった母親たちが手伝いに来てくれており、良い連携(人間関係)が起きている。

- ・ 男性は、あまり活動の中心にはならないが、会場の設営など力仕事などをやってくれ、それも助かっている。

集会施設

- ・ 集会所は重要であり、よく活用されている。人の集まる場所を作れば、人が出てくる。
- ・ 以前は管理公社の職員が管理していたが、使用のルールが厳しく、料金も高かったのであまり使わなかった。
- ・ 管理公社の考え方が変わり、会館の管理を地元任せてもらえたのは大きい。5団体で毎日当番(1~2人)して朝8:10~22:00までの間、管理している。
- ・ 活動は自治会によるミーティングのほか、習い事などに使われている。管理を受託している自治連合会の各団体では、全てボランティアではなく、多少の経費をいただいている。
- ・ なるべく、経費をかけないように運営をしており、清掃については、月に1度、5団体、30人ほどで実施をしている。